A13

伝統的な建築物および町並みの文化財的評価

工学部・建築学科・准教授・野々垣 篤 nonogaki@aitech.ac.jp

キーワード 伝統的建築、伝統的町並み、文化財、建造物調査、町並み調査、SDGs

概要

科学技術の発展にともない、旧来からの地域文化に基づく伝統的な建築や町並みが破棄され、地域色のない建築物による一様な都市景観・町並みが広がっていった。その一方で、地域のまちづくり手段としては、環境保全の観点および地域の過疎化、地域文化の衰退に対する懸念から、地域に遺る伝統的な建築物や町並みの再評価を図り、観光資源として地域振興につなげる流れもあり、国宝・重要文化財へ指定される建造物や登録文化財制度による登録を受ける建築物、そして重要伝統的建造物群保存地区に選定される町並みが増える傾向がある。そうした場合、制度上、文化財としての評価を、第三者が客観的に行う必要がある。その文化財の客観的評価の役割を担う。

セールスポイント

- 1. 伝統的な建築に対する専門的な知識
- 2. 伝統的な建築物および町並みの調査の実績
- 3. 国の制度による文化財の登録にかかわる評価の実績

企業等での活用例、今後の展望等

- 1. まちづくり、観光開発など、文化財を活用する施策等に有用な基礎的データの収集。
- 2. 地域の伝統的な建築物の価値について、その地域の住民に広く伝える。
- 3. 時代の流れの速度や評価軸の変化にも対応できるよう、継続的に調査研究を進め、より正確で迅速な文化財評価手法の発見や確立を目指す。

SDGsへの寄与

地域文化の評価とその価値の発信を通して文化多様性の維持と持続可能な開発へつな げる点において、SDGs目標の4.7に貢献する。

参考資料

- ・ 愛知県教育委員会「愛知県の近代和風建築 愛知県近代和風建築総合調査報告書」2007.3
- ・ 名古屋市歴史まちづくり推進室「名古屋市有松 伝統的建造物群保存対策調査報告書」 2015.3